

福島第一原子力発電所の状況 / 3月31日 10:00現在 (公開情報を元に原産協会とりまとめ)

福島第一原子力発電所						
号機	1号機	2号機	3号機	4号機	5号機	6号機
電気出力 / 熱出力(MW)	460 / 1380	784 / 2381	784 / 2381	784 / 2381	784 / 2381	1100 / 3293
型式	BWR-3	BWR-4	BWR-4	BWR-4	BWR-4	BWR-5
地震時の運転状況	運転中 ⇒ 自動停止	運転中 ⇒ 自動停止	運転中 ⇒ 自動停止	定期点検中	定期点検中	定期点検中
炉心への装荷燃料体数	400体	548体	548体	燃料なし(使用済み燃料プールに移送)	548体	764体
炉心燃料健全性	炉心損傷	炉心損傷	炉心損傷	燃料なし	健全	健全
原子炉圧力容器構造健全性	不明	不明	不明	健全	健全	健全
格納容器構造健全性	健全と評価	損傷・漏えいの疑いあり	健全と評価	健全	健全	健全
交流電源を要する原子炉冷却機能1 (淡水による大容量注水)	機能喪失	機能喪失	機能喪失	必要とせず	機能有り	機能有り
交流電源を要する原子炉冷却機能2 (熱交換器を介した冷却)	機能喪失	機能喪失	機能喪失	必要とせず	稼動中	稼動中
建屋健全性	大きく損傷(水素爆発)	損傷	大きく損傷(水素爆発)	大きく損傷(水素爆発)	屋上孔空け実施(水素対策)	屋上孔空け実施(水素対策)
原子炉圧力容器内水位	燃料露出(部分又は全体)	燃料露出(部分又は全体)	燃料露出(部分又は全体)	安全状態	安全状態(冷温停止)	安全状態(冷温停止)
原子炉圧力容器内圧力・温度	圧力:上昇傾向 温度:400℃以上に上昇(22日)後やや低下	圧力:不明 温度:安定	不明	安全状態	安全状態	安全状態
格納容器圧力	0.4MPaまで上昇(24日)後やや低下	安定	安定	安全状態	安全状態	安全状態
炉心への注水(アクシデントマネジメント)	実施中(海水から淡水へ)	実施中(海水から淡水へ)	実施中(海水から淡水へ)	必要とせず	必要とせず	必要とせず
格納容器への注水(アクシデントマネジメント)	(確認中)	(確認中)	(確認中)	必要とせず	必要とせず	必要とせず
格納容器ベント(アクシデントマネジメント)	一時停止	一時停止	一時停止	必要とせず	必要とせず	必要とせず
使用済み燃料プール内の貯蔵燃料体数	292体	587体	514体	1331体	946体	876体
使用済み燃料プール内の燃料健全性	不明	不明	損傷の疑いあり	損傷の可能性	健全	健全
使用済み燃料プールの冷却機能	注水検討	注水実施(海水)	放水実施(海水)	放水実施(海水) プール内で発生した水素が爆発(15日)	一時冷却機能が喪失し、プール水温上昇したが、機能回復し冷却	一時冷却機能が喪失し、プール水温上昇したが、機能回復し冷却
中央制御室の居住性・操作性	交流電源喪失により悪化(照明のみ回復:1, 2号機)		交流電源喪失により悪化(照明のみ回復:3, 4号機)		健全(推定)	
環境影響	環境モニタリングによる放射線計測値:事務本館南側に1.00mSv/h、正門にて156μSv/h、西門にて72μSv/h(いずれも3月30日21:00現在) 近隣の畜産物から食品衛生法上の暫定規制値を超える放射性物質が検出。出荷制限(3月21日~)、摂取制限(3月23日~)を実施中。 近隣の水道水から食品衛生法上の暫定規制値を超える放射性ヨウ素が検出。飲用しないよう呼びかけ(3月21日~27日)。県内4市町村以外は解除(~3月28日)。 3月23日、発電所付近の海水から、放射性ヨウ素、セシウム、ルテニウム、テルル等が検出。モニタリングを強化。 原子力安全委員会は、緊急時迅速放射能影響予測ネットワークシステム(SPEEDI)を用いて、発電所周辺地域における被ばく線量を試算(3月23日)。http://www.nsc.go.jp/info/110323_top_siryoo.pdf 2号機タービン建物の地下や建屋外の配管などを通すためのトンネルにたまっている水の表面で1時間当たり1000ミリシーベルト以上の強い放射線を計測(3月27日)。 発電所敷地内の土壌からプルトニウムを検出(3月28日)。濃度は、過去の大気圏内核実験において国内で観測されたフォールアウトと同様、通常の環境レベルで人体に問題となるものではない。					
避難勧告	20km圏内住民に避難指示(12日18:25) *20~30km圏内住民に屋内退避指示(15日11:06)、自主避難促進(25日11:30)					
国際原子力事象尺度(INES) (原子力安全・保安院による暫定評価)	レベル5	レベル5	レベル5	レベル3	-	-
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ●注水機能復旧に向けた作業の進捗 1~3号機の原子炉への注水は、海水から淡水に切り替え完了(3月26日)。各建屋において放射線レベルが高く、既設ポンプの復旧作業が停滞。1~3号機の建屋内に溜まった高い濃度の放射性物質を含む水の除去の作業が一部開始されたが、終了の目途は立っていない。(24日、被ばくした作業員3名が病院に入院。うち2人は足に2~3シーベルトの局所被ばく。28日退院。) ●放射性物質の閉じ込め機能 1号機、2号機、3号機のタービン建屋内にたまっている水を調査した結果(3月24日~27日)より、放射性物質の濃度の高い2号機について、原子炉内の放射性物質が格納容器外に漏れている可能性あり。原子力安全・保安院は、複数のデータから、2、3号機の原子炉圧力容器の圧力は低いものの、大規模な割れなどの存在を示す兆候はないことから、空気のリークが発生している可能性があること述べた(3月30日)。 ●使用済み燃料プールの冷却 1~4号機の使用済み燃料プールから水蒸気のようなものが断続的に吐出。格納容器外にある使用済み燃料プール内の冷却のため、必要に応じて注水、放水実施中(3月17日~)。水源を海水から淡水に切り替え予定。 					

[情報源]

政府緊急対策本部発表 (http://www.kantei.go.jp/saigai/index.html)
原子力安全・保安院発表 (http://www.nisa.meti.go.jp/)
東京電力発表 (http://www.tepco.co.jp/nu/index-j.html)

[重要度](原産協会の評価)

低
高
深刻(緊急対応要)

福島県民避難で 義捐金募る
原産協会
原産協会は今回の東北地方太平洋沖地震に伴う福島県の原子力発電所事故で、避難を余儀なくされている方々を支援するため義捐金の募集を開始した。四月二十八日まで募集、義捐金は同県避難の市町村長に届ける。
一口千円以上で、三菱東京UFJ銀行新橋支店普通口座0362891「日本原子力産業協会原子力義捐金口座」まで。振込み手数料は各自負担、振込みをした方はainkin@jai.or.jpまで連絡を。問い合わせは同総務部(電話03-68121710)まで。

「がんばれ漁業 募金」を開始
全漁連
全国漁業協同組合連合会は、今回の東北関東大震災が、岩手県宮城県・福島県など多くの漁業・漁村などにも壊滅的な被害をもたらしたことから、「Jグループ東北地方太平洋沖地震漁業・漁村災害・復興対策本部」を設置し、「がんばれ漁業募金」を開始した。
五月十六日までに十億円を目標としている。問い合わせ先は全漁連総合管理総務担当(電話03-3294-9611)まで。



Leading Supplier of Nuclear Fuel Cycle Goods and Services



株式会社テネックス・ジャパン
TENEX-JAPAN Co.,

東京都港区虎の門5丁目11番2号 オランダヒルズ森タワー14F
(Tel):03-5776-1511 (Fax):03-5776-1512 (E-mail): info@tenex.co.jp